

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成30年1月16日

協議会名：粟島浦村地域公共交通協議会

評価対象事業名：離島航路運営費等補助金及び離島航路構造改革補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
粟島汽船株式会社	粟島と本土（岩船）を結ぶ唯一の交通手段で、通院や買い物などで利用する島民のほか、公共工事関係者や観光客が主な利用者となっており、閑散期（11/1～4/30）においては1日2便～3便、繁忙期（5/1～10/31）においては1日最大5便の運航をしている。	・安定的な航路を維持するため、運輸局やハローワーク、新潟県内の海事関連学校へ求人を出し、3名を確保した。 ・船員の育成のため海技士資格取得を働きかけた。国の船員計画雇用促進等事業を活用し、講習会へ参加させ、かつ、参考書等の書籍を購入するなどして資格が取得できる環境整備に努めた。 ・粟島観光協会と一体となり、誘客イベントとして、運賃割引と名物わっぱ煮定食をセットにした「わっぱ煮バック」商品を開発して誘客に取り組んだ。 ・粟島観光協会と共に、観光パンフレットを作成し、県内外の旅行業者等へ配布し宣伝を行った。また、上記の「わっぱ煮バック」は、新聞・雑誌等に広告を掲載し利用者増加を図った結果、500名を誘客することができた。	A ・繁忙期に台風が接近し運航できない日があったが、事業は概ね計画に沿って適切に実施された。	B 旅客輸送者数は、目標55,905人に対して実績49,989.5人（▲5,915.5人）となり目標を10.6%下回る結果となったが、前年度実績48,809人から2.4%（1,180.5人）増加させることができた。 旅客運賃収入は、旅客輸送者数が計画を下回ったことに連動して目標157,274千円に対して、実績130,221千円（▲27,053千円）となり目標を17.2%下回る結果となった。 10月～7月は、工事関係者の往来が多く、天候に恵まれたことや新規イベント「わっぱ煮バック」を実施したこともあって、前年度同月より2,127名増加した。しかし、繁忙期である8月上旬に台風が接近したこと、お盆時期の天候が不安定であったことから、海水浴客やキャンプ客が減少したため、目標が達成できなかったと思われる。	・今後も安定的な運航を維持するため、船員の確保・育成に努める。 ・利用者を増やすため島内のイベントを実施し利用促進に取り組む。 ・観光客の誘致増加に向けて観光協会と連携し「あわしま自然体験」での学習を目的とした利用者の誘致や県の支援事業を活用し、学生対象のイベント等を企画し実施していく。 ・一層の経費削減を行い、欠損額の抑制に努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月16日

協議会名：	栗島浦村地域公共交通協議会
評価対象事業名：	離島航路運営費等補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	栗島航路は、栗島と本土を結ぶ唯一の交通手段であり、極めて公共性が高く、村民の生活安定と経済発展のためには不可欠な航路である。 今後も島民の安心した生活と地域経済の発展を維持していくためには、離島航路の確保・維持・改善が不可欠であり、航路事業者ばかりではなく、国、新潟県、栗島浦村、周辺自治体などが総合的に連携しながら支援していくことが重要であり、引き続き、本事業を活用しながら、関係者が一体となって、当該航路の確保・維持・改善を図っていく。

粟島航路の状況

1. 輸送実績について

本年度は、10月上旬には釣り客が多く訪れ前年同月比12.2%（447名）増、11月～4月は工事関係者の往来があったものの時化が多かったため島民の利用が減り▲0.4%（42名）減となった。5月の大型連休は天候に恵まれ利用者が多く来島し15.9%（873名）増となり、6・7月も週末に釣り客が多く訪れた。また、誘客イベントとして船の割引と名物わっぱ煮定食を付けた「わっぱ煮バック」商品を旅行業者に売り込み、500名を誘客することができた。しかし、繁忙期の8月上旬には台風が接近したことでキャンセルが相次ぎ、お盆時期も天候が不安定だったため、8月は前年同月比▲4.3%（579名）減となった。結果、当初計画人員を大きく（10.6%）下回ることとなった。しかし、春先の5・6月が伸びたため輸送人員は前年度実績より2.4%（1,180.5人）増となった。

【参考：平成29年度輸送実績及び前年度比較表】

平成29年度 (H28.10～H29.9)			前年度比較 (H27.10～H28.9)	
実績	総輸送人員	49,989.5人	2.4%増	1,180.5人増
内訳	高速船	21,948.5人	2%増	445.5人増
	普通船	28,041.0人	2.7%増	735人増
計画	総輸送人員	55,905.0人		

※子どもは0.5人で換算

※計画と実績の差は▲5,915.5人

※月別輸送実績は別紙参照

2. 航路損益計算書について

収益は、11月～4月は工事関係者の行き来が多く伸びたものの時化が多かったため島民の利用が減少した。また、5・6月及び7月の団体客は増加したが、繁忙期の8月上旬に台風が接近したことやお盆時期の天候が不安定であったことから旅客が大きく減少したため、当初計画より減少した。しかし、公共工事の影響で車両運搬数が伸びて22.6%（763台）増となった。

費用は、燃料単価の値上げで平均単価53.2円となり、前年度平均単価と比較すると6.5円の値上げとなったが、計画単価61円より安価となったため、結果的に経費節減となった。また船員費は、退職者はいなかったものの3人新採用（12月採用1名、4月採用2名）し、計画に対し2,866千円増加した。船舶修繕費は計画49,282千円に対し、42,732千円となり、乗組員による修繕により6,550千円を削減することができた。その他の営業費用は、岩船待合所トイレ改修工事分の償却費が382千円増加、倉庫屋根修繕工事で988千円増加、税金351千円増加、保険料463千円減少し、合計で1,066千円増加となった。

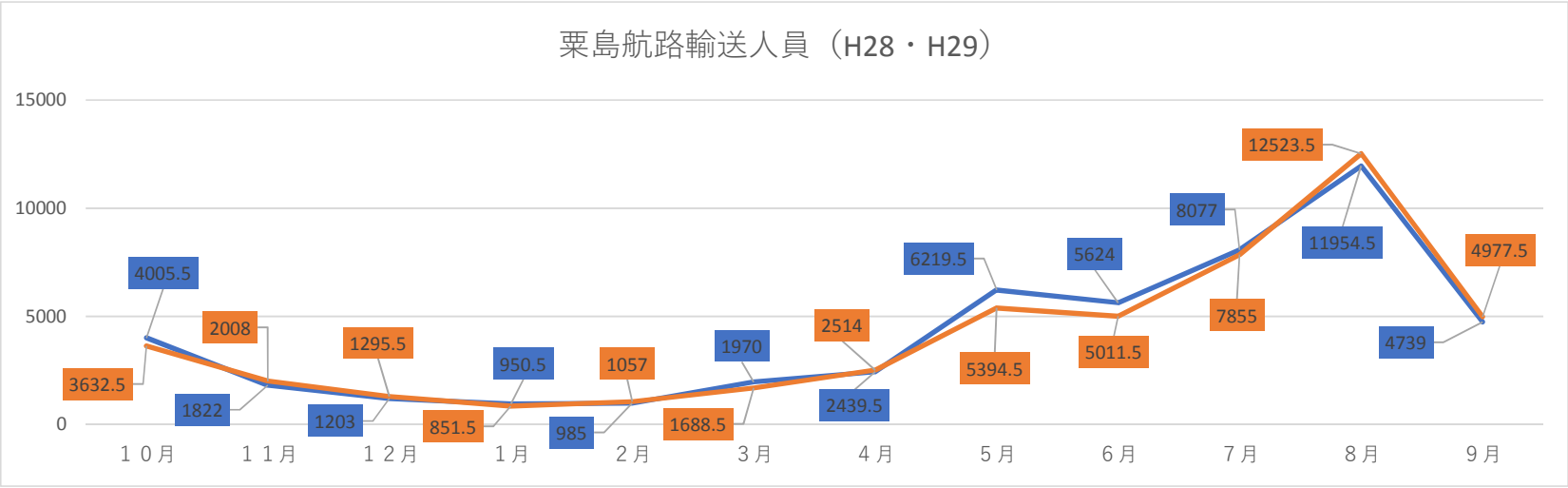
結果、収益計218,806千円、費用計323,311千円、差引当期純利益▲104,505千円となり、計画より当期純損失を25,655千円減らすことができた。また、前年度と比較すると当期純損失を98,381千円減らすことができています。

【参考：平成29年度航路損益計算及び前年度比較表】

平成29年度 (H28.10～H29.9)				前年度比較 (H27.10～H28.9)	
	実績	計画	計画－実績	実績	
収益計	218,806	234,615	15,809	10%増	19,199増
費用計	323,311	364,775	41,464	20%減	79,182減
差引当期純利益	▲ 104,505	▲ 130,160	▲ 25,655	48%増	98,381増

単位：千円

平成29年度生活交通確保維持改善計画期間の栗島航路輸送実績



平成29年度													
	平成28年			平成29年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
高速船	1,939.0					235.0	1,547.0	3,312.0	3,210.0	4,025.5	5,265.5	2,315.5	21,849.5
普通船	2,066.5	1,822.0	1,203.0	950.5	985.0	1,735.0	892.5	2,907.5	2,414.0	4,051.5	6,689.0	2,423.5	28,140.0
合計	4,005.5	1,822.0	1,203.0	950.5	985.0	1,970.0	2,439.5	6,219.5	5,624.0	8,077.0	11,954.5	4,739.0	49,989.5
H27年度との差（人）	373	-186	-93	99	-72	282	-75	825	613	222	-569	-239	1,181
H28年度との差（率）	110%	91%	93%	112%	93%	117%	97%	115%	112%	103%	95%	95%	102%

平成28年度													
	平成27年			平成28年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
高速船	1,848.5					234.0	1,562.0	2,811.5	2,786.0	3,898.5	5,453.5	2,909.0	21,503.0
普通船	1,784.0	2,008.0	1,295.5	851.5	1,057.0	1,454.5	952.0	2,583.0	2,225.5	3,956.5	7,070.0	2,068.5	27,306.0
合計	3,632.5	2,008.0	1,295.5	851.5	1,057.0	1,688.5	2,514.0	5,394.5	5,011.5	7,855.0	12,523.5	4,977.5	48,809.0